

釧路とクジラ

- クジラのまちづくりにおける鯨食文化の復興と伝承 -

劉坤

キーワード：鯨食文化、伝承、食事空間、アイデンティティの再構築、記号化

要旨

本研究は釧路市で行われた行事「くじら祭り」と学校給食鯨肉料理に着目し、釧路市の鯨食文化の復興、伝承と「クジラのまちづくり」との関係に関する研究である。

第1章の序論では、研究の背景、研究目的、食文化の発展について、捕鯨文化の記録、文化認識の先行研究、研究のアプローチと方法、および関連する理論的基礎について述べている。

第2章では、地理的環境から出発し、釧路の捕鯨史を中心に、商業捕鯨の一時停止前後を分析し、釧路市の鯨食文化の起源と定着の過程を探る。

第3章では、文化の解釈における「厚い記述」を用いて、釧路市の日常生活とくじら祭りにおける鯨肉料理を分析し、釧路市民の鯨肉に対する嗜好を明らかにし、年配の人々と若者の間にある鯨食文化の断層を発見する。競争から利用へ、まちづくりの紐帯、地域経済の推進力という三つの側面から鯨食文化の文化的役割について検討する。

第4章では、一連のくじらに関連する活動の展開と学校給食における鯨肉料理の事例を通して、釧路市の鯨食文化の記号化過程と伝承方法を説明する。そして、学校給食での鯨肉料理が釧路市の鯨食文化の伝承に重要な役割を果たしていることを指摘する。

第5章では、釧路市水産課のS氏とN氏との対談を通じ、捕鯨頭数の急減とアイデンティティ喪失の危機という二つの側面から、現在釧路市が直面している鯨食文化の復興と伝承の危機を分析する。

第6章では鯨食文化の文化的意味をめぐり、釧路市のアイデンティティ再構築における鯨食文化の役割を示す。

第7章の結論では、釧路市のくじらのまちづくりにおける鯨食文化の復興と伝承の活動を踏まえ、釧路市の鯨食文化に関する研究を通し、地方の知識としての地域食文化がその地域の社会文化的な意義を表しており、その伝承と発展には深い文化的実践

の論理が貫かれていることが明らかになる。